

平成 28 年度事業報告

■公益目的事業 1（「創造する伝統賞」の主催）

（定款第 4 条第 1 項第 2 項）

◆助成顕彰事業（第 23 回）

平成 28 年 10 月 13 日の理事会の審議を経て 3 名に授与した。

「第 8 回創造する伝統賞」 賞金各 100 万円

- 青木 芳昭（62 歳） 洋画家・素材研究
- 風間 サチコ（44 歳） 木版画家
- 満田 晴穂（36 歳） 金工作家

（1）対象

日本の伝統文化及び現代芸術の広い分野を対象とする。国籍不問。

（2）募集応募概況

発 送 先：美術館・博物館・新聞社・雑誌・大学・財団役員他関係者・文化藝術の会会員・
歴代助成顕彰授賞者関係者・歴代奨学生・評論家・画廊・授賞式典出席者・資
料請求者

発 送 数：1,917 通

告 知：当財団 WEB サイト（ホームページ、facebook）、会報、邦楽ジャーナル、美術
の窓ほか

応募総数：39 件（一般公募 25 件、推薦応募 14 件）

（3）選考委員会

開催日時：平成 28 年 9 月 23 日 14：00～16：00

開催場所：公益財団法人日本文化藝術財団 会議室

出 席 者：柏木博委員長、唐澤昌宏委員、根岸吉太郎委員、花光潤子委員、山本豊津委員
書面出席：古山正雄委員

役 員：北村誠副理事長（オブザーバー）

事 務 局：事務局員 2 名

選考方法：事前に選考委員に全応募者の資料を送付し、閲覧を依頼した。

選考委員会当日、事前審査による候補者を各委員が発表し、応募者から提出され
た DVD、CD、ポートフォリオ、論文集、カタログ、パンフレット、著書、
掲載書籍等を視聴及び回覧した。

各委員より応募者に対する意見を出し合い、選出候補者を絞り、さらに審議し
各委員の同意の上で、選出者を決定した。

（4）理事会の決議

平成 28 年 10 月 13 日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された 3 名への「創造
する伝統賞」授与を決議した。

（5）授与式典の開催

開催日時：平成 29 年 2 月 9 日（木） 14：00～17：20

開催場所：明治記念館（曙の間）

出 席 者：[授 賞 者] 青木芳昭、風間サチコ、満田晴穂

- [助成顕彰選考委員] 柏木博委員長、唐澤昌宏委員、根岸吉太郎、花光潤子委員、山本豊津委員
- [奨学金選考委員] 寺脇研委員長、木村博昭委員、成田宏紀委員、原高史委員、藤本由紀夫委員
- [専門委員] 葛西聖司委員、金澤毅委員、菅野由弘委員、茂手木潔子委員
- [役員] 徳山豊理事長、北村誠副理事長、大野木啓人常務理事、竹内昌義理事、橘市郎理事、津田恵子理事、吉木稔朗理事、脇田直枝理事、渋谷佳樹監事、野呂芙美子評議員
- [来賓] 文化庁文化部芸術文化課課長 山口壮八様

内容: 理事長挨拶、文化庁山口様祝辞、選考委員からの選評、賞状・賞金目録の授与、併催の日本文化藝術奨学金選評、奨学金証書・目録の授与、授賞者紹介、記念撮影、授賞者との懇談

(6) 賞金の授与

平成 29 年 5 月 本人名義の口座に振込にて授与

(7) 授賞者の紹介

当財団 WEB サイト

授賞者紹介の小冊子を作成し授賞式で配付、その他関係者へ送付

■公益目的事業 2 (芸術系大学等に在学する学生及びその他の学生に対する奨学金の給付)

(定款 第 4 条 第 3 項)

◆育英事業

「日本文化藝術奨学金」

平成 28 年度育英事業として「日本文化藝術奨学金」の募集を行い、平成 28 年 8 月 23 日に選考委員会を開催。平成 28 年 10 月 13 日の理事会の審議を経て、6 名を奨学生として決定した。

日本文化藝術奨学金 各 50 万円

- 豊海 健太 金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科 美術工芸専攻
工芸領域 漆芸分野 博士課程 2 年 (27 歳)
- 川人 綾 東京藝術大学大学院 美術研究科 美術専攻 先端芸術表現領域
博士課程 2 年 (28 歳)
- 栗田 ふみか 女子美術大学大学院 美術研究科 美術専攻 版画研究領域
博士課程 1 年 26 歳
- 菅 実花 東京藝術大学大学院 美術研究科 美術専攻 先端芸術表現領域
博士課程 1 年 (28 歳)
- 堀 千夏 東京藝術大学大学院 映像研究科 映画専攻 美術領域
修士課程 1 年 (24 歳)
- 國清 尚之 東京藝術大学大学院 芸術研究科 芸術専攻 総合造形領域
博士課程 1 年 (25 歳)

(1) 対象者

次の条件を充たし、文化・芸術の分野で将来にわたり活動が期待され、才能・可能性が認められる者

- (1)国内の芸術系大学の大学院に就学しており、かつ次年度在籍予定者であること
(2)学業成績、生活態度共に優秀で、健康な学生であること
※ 対象の大学は、国内の芸術系の大学・大学院で実技部門を設けている大学とする。

(2) 募集応募概況

募 集：大学院生 6名 奨学金 1年間 50万円の給付
募集期間：平成28年6月1日から平成28年6月11日（当日消印有効）
申請書類：①奨学生願書 ②推薦書 ④成績証明書 ⑤在学証明書
応募状況：41名
・前年と比べ、応募総数が増加した。（+10件）

(3) 選考委員会

開催日時：平成28年8月23日（火） 18：30～20：30
開催場所：公益財団法人日本文化芸術財団 会議室
出席者：寺脇研委員長、成田宏紀委員、原高史委員、藤本由紀夫委員
書面出席：天野喜孝委員、木村博昭委員
役員：野呂英美子評議員（オブザーバー）
事務局：事務局員2名

○選考資料

- ・日本文化芸術奨学金 学校別応募人数
- ・日本文化芸術奨学金 学校別過去の受給者数
- ・日本文化芸術奨学金 受給者詳細リスト ※事前送付
- ・応募者資料（応募書類一式） ※事前送付
- ・応募者資料（ポートフォリオ等参考資料）

○選考方法

- ・事前に選考委員に全応募者の資料を送付し、閲覧を依頼。
- ・選考委員会当日、事前審査による候補者を各委員6名ずつ発表し、応募者から提出されたポートフォリオ、DVD等参考資料を視聴・回覧した。
- ・各候補者の推薦理由をそれぞれ挙げ、票数の最も多い中から4名を満場一致で選出した。
- ・次に票数の多い候補者について審議し、1名を選出した。
- ・上記で選外となった者と、その他票数が割れた候補者の中から、特に注目する候補者についてそれぞれ意見を述べた上で、再審議し、1名を選出した。

(4) 理事会の決議

平成28年10月13日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された6名に奨学金授与を決議した。

(5) 授与式典の開催

開催日時：平成29年2月9日（木） 14：00～17：20
開催場所：明治記念館（曙の間）
出席者：[奨学生] 豊海健太、川人綾、栗田ふみか、菅実花、堀千夏、國清尚之
[奨学金選考委員] 寺脇研委員長、木村博昭委員、成田宏紀委員、原高史委員、藤本由紀夫委員
[助成顕彰選考委員] 柏木博委員長、唐澤昌宏委員、根岸吉太郎、花光潤子委員、山本豊津委員

[専 門 委 員] 葛西聖司委員、金澤毅委員、菅野由弘委員、茂手木潔子委員
[役 員] 徳山豊理事長、北村誠副理事長、大野木啓人常務理事、
竹内昌義理事、橋市郎理事、津田恵子理事、吉木稔朗理事、
脇田直枝理事、渋谷佳樹監事、野呂芙美子評議員

[来 賓] 文化庁文化部芸術文化課課長 山口壮八様

内 容 : 理事長挨拶、文化庁山口様祝辞、選考委員からの選評、賞状・賞金目録の授与、
併催の日本文化藝術奨学金選評、奨学金証書・目録の授与、授賞者紹介、
記念撮影、授賞者との懇談

(6) 奨学金給付

平成 29 年 4 月 前期分として給付金の半額を本人名義口座に振込にて給付
平成 29 年 9 月 後期分として給付金の残金を本人名義口座に振込にて給付

「加藤定奨学金」

平成 28 年度育英事業として「加藤定奨学金」の募集を行い、平成 28 年 8 月 23 日に選考委員会を開催。平成 28 年 10 月 13 日の理事会の審議を経て、6 名を奨学生として決定した。

➤ 京都・奨学金給付大学生 2 名

- 辻 睦都実 京都造形芸術大学 芸術学部 マンガ学科ストーリーマンガコース
3 年 (20 歳)
- 桑原 愛恵 京都市立芸術大学 美術学部 美術学科 彫刻専攻
2 年 (20 歳)

➤ 全国・奨学金給付大学生 4 名

- 葛西 茉耶 東京藝術大学 美術学部 絵画科 油画専攻
3 年 (25 歳)
- 村上 亜希 横浜美術大学 芸術学部 美術学科 絵画コース
3 年 (26 歳)
- 山下 りさ 武蔵野美術大学 造形学部 油画学科 油画専攻
3 年 (20 歳)
- 白鳥 芽生 女子美術大学 美術学部 美術学科 日本画専攻
2 年 (19 歳)

(1) 対象者

次の条件を充たす者

- (1) 国内の芸術系大学の 2 年生及び 3 年生に就学し、かつ次年度在籍予定者であること
- (2) 学業優秀、品行方正でありながら経済的事由によって就学に支障をきたしている学生であること

※ 対象の大学は、国内の芸術系の大学・大学院で実技部門を設けている大学とする。

(2) 募集概況

募 集 : 大学生 6 名 奨学金 1 年間 30 万円の給付

募集期間 : 平成 28 年 6 月 1 日から平成 28 年 6 月 11 日 (当日消印有効)

申請書類 : ①奨学生願書 ②推薦書 ④成績証明書 ⑤在学証明書 ④所得証明書

応募状況 : 応募総数 19 名 (京都 7 名、全国 12 名)

・昨年に比べ、応募総数が増加した。(京都+5、全国-1、総合+4)

(3) 選考委員会

開催日時：平成 28 年 8 月 23 日（火） 18：30～20：30

開催場所：公益財団法人日本文化藝術財団 会議室

出席者：寺脇研委員長、成田宏紀委員、原高史委員、藤本由紀夫委員

役員：野呂芙美子評議員（オブザーバー）

書面出席：天野喜孝委員、木村博昭委員

事務局：事務局員 2 名

○選考資料

- ・ 加藤定奨学金 学校別応募人数・受給者数
- ・ 応募者資料（応募書類一式） ※事前送付
- ・ 困窮度順リスト ※事前送付

○選考方法

- ・ 事前に選考委員に全応募者の資料（提出された所得証明書や応募書類より[認定所得額]（日本学生支援機構奨学金の控除額の算出方法を参考にした計算式で算出したポイント）を算出したものを含む）を送付し、閲覧を依頼。
- ・ 選考委員会当日、困窮度の高い順に出席委員全員で詳細確認をし、意見交換を行った。

【京都】

- ・ 困窮度上位者から順に、ポイントに反映されていない状況等を確認し、満場一致で 1 名を候補者として選出した。
- ・ 次点以降の応募者について、再度応募資料を確認し、満場一致で 1 名を候補者として選出した。

【全国】

- ・ 困窮度上位者から順に、ポイントに反映されていない状況等を確認し、満場一致で 2 名を候補者として選出した。
- ・ 再度応募資料を確認し、満場一致で 2 名を候補者として選出した。

(4) 理事会の決議

平成 28 年 10 月 13 日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された 6 名に奨学金授与を決議した。

(5) 奨学金給付

平成 29 年 4 月 前期分として給付金の半額を本人名義口座に振込にて給付

平成 29 年 9 月 後期分として給付金の残金を本人名義口座に振込にて給付

■公益目的事業 3（自主企画公演、展示・体験活動・セミナー・映画上映・演奏会等の文化祭の開催、ホームページでの情報発信、及び実施事業の記録）

（定款第 4 条第 4 項第 5 項第 6 項）

◆文化芸術普及活動事業

(1) 創造する伝統 社の中の文化祭

当財団の基本理念である「創造する伝統」を体現する実技者（これまでの助成顕彰受賞者）を中心とした催しを開催。社の自然を感じながら文化・芸術に触れ、参加者それぞれがこの体験を通して、文化・芸術への興味を深め、親しむことを目的とする。

<実施概要>

① 【中今茶会】

日 時 : 平成 28 年 7 月 17 日 (日)・18 日 (月祝)
会 場 : 明治神宮 隔雲亭
特別協力 : 明治神宮
協 力 : 小川流煎茶
後 援 : 京都造形芸術大学 東北芸術工科大学
参 加 費 : 無料 (事前申込制) ※茶席参加は文化藝術の会会員のみ
内 容 : 明治神宮内の茶室「隔雲亭」を会場とした茶会。これまでの助成
顕彰事業授賞者である岡田修二氏(画家/第3回創造する伝統賞)、
前田正博氏(陶芸家/第6回創造する伝統賞)の作品を随所に配
置した。
来場者数 : 151名

② 【Cross the Arts and Culture】

日 時 : 平成 28 年 10 月 27 日 (木)
会 場 : 京都造形芸術大学外苑キャンパス、赤坂金龍
協 力 : 赤坂金龍、岩崎ミュージアム
後 援 : 京都造形芸術大学、東北芸術工科大学
参 加 費 : 無料 (事前申込制) ※音餐会のみ食事代一部実費徴収
来場者数 : のべ 68 名
内 容 : さまざまな分野の文化・芸術を体験する企画。第 6 回創造する伝
統賞授賞の川瀬露秋氏(地歌箏曲胡弓演奏家)、吉田直氏(彫刻家)
の活動について紹介する場にもなった。他に、過去の日本文化藝
術奨学金受給者によるワークショップを開催。

① ガラスに刻む秋模様

時 間 : 10:00~12:00
場 所 : 京都造形芸術大学 外苑キャンパス
参 加 費 : 無料
講 師 : 齋藤悠紀/平成 19 年度日本文化藝術奨学金奨学
生
内 容 : 講師の齋藤氏が近年手がけている版画の技法を
応用したガラス絵の制作を体験した。
参加者数 : 17 名

② 音餐会

時 間 : 12:45~14:45
場 所 : 赤坂金龍
参 加 費 : 一般 4,500 円/文化藝術の会会員 1,500 円
演 奏 : 川瀬露秋/第 6 回創造する伝統賞授賞者
藤井泰和/地歌箏曲演奏家
内 容 : 地歌の実演を解説付きで鑑賞。会食には、演奏者
やその他のプログラムの講師も参加し、交流する
ことでそれぞれの活動への理解をより深めた。
参加者数 : 26 名

③ 寄木造りの表現—仏から人へ、印相と空洞—

時 間 : 15:30~17:00
場 所 : 京都造形芸術大学 外苑キャンパス
参 加 費 : 無料
講 師 : 吉田直/彫刻家第 6 回創造する伝統賞授賞者

金子典正／京都造形芸術大学教授
内 容 : アジアの様々な仏像と吉田氏の作品を比較した
講演会。現代芸術の作品に潜む伝統的な技法や文
化的背景について考察した。
参加者数 : 25名

(2) 茶論四季おりおり

<実施概要>

① 【五山の送り火鑑賞と授賞者工房訪問】

日 時 : 平成 28 年 8 月 16 日 (火)
会 場 : 光峯錦織工房、京都造形芸術大学瓜生山キャンパス
参 加 費 : 無料
来 場 者 数 : 16 名
内 容 : 京都の夏の文化と芸術を堪能し、賛助会員同士の交流を深める

① 光峯錦織工房訪問&手織り体験

時 間 : 13:30~16:00
場 所 : 光峯錦織工房
内 容 : 龍村光峯氏(第7回日本伝統文化振興賞授賞)の
工房を訪問。解説付きで展示作品や錦織で使用す
る道具を鑑賞し、実際に職人が使う高機での機織
や、錦織を使用したアクセサリ作りを体験し
た。

② 五山の送り火鑑賞

時 間 : 19:00~21:00
場 所 : 京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス
内 容 : 京都市内でも有数の絶景ポイントでの、五山の送
り火の鑑賞。受継がれる文化への考察を深めた。

② 【エンターテイメントの殿堂—日劇—それぞれの物語】

日 時 : 平成 29 年 3 月 25 日 (土) 14:00~16:00
会 場 : 京都造形芸術大学 外苑キャンパス
協 力 : 京都造形芸術大学、(社) 達人の館、東北芸術工科大学
参 加 費 : 1,000 円 ※文化藝術の会会員は無料
内 容 : ○ 第 1 部 対談

橋市郎氏(舞台・音楽プロデューサー／(公財)日本文化芸術財
団理事)と真島茂樹氏(ダンサー・振付師)の対談。1960年代、
戦後の芸能界を牽引した日劇の閉館から35年。日劇のトップダ
ンサーの真島氏と同じく日劇で舞台監督やプロデューサーをつと
めた橋氏が映像資料をまじえ、それぞれの視点で日劇を振り返っ
た。

○ 第 2 部 交流会 ※お茶・お菓子付

フリートーク形式で参加者から質問を受けることで、観客の視点
も加わり、多角的に時代と芸能との関係などさまざまな思いを語
りあった。最後は真島氏によるミニダンスレッスンで、親睦を深
めた。

参加者数 : 25名

(3) こども芸術の家プロジェクト（支援）

※「こども芸術の家プロジェクト」は、東日本大震災後において芸術とデザインの力によって被災地への復興支援を継続的に行うことを目的に2011年5月に立ち上げられ、学生や地域も協同した教育支援プロジェクトを実施している。

主 催：東北芸術工科大学

協 力：公益財団法人 日本文化芸術財団

事 務 局：東北復興支援機構（TRSO）

活動内容：震災後の東北の街をテーマに、風景を言葉（詩）として社会へ発信するプロジェクトの実施

① 和合亮一連投詩①『詩ト詩ト歩ク／山形ノ街ノ交差点デ詩ガハジマル』

開催時期：平成28年9月18日（日）／9月22日（木・祝）

② 和合亮一連投詩②『詩ト詩ト語ル／夜ノ図書館デ詩ノ灯リヲサガソウ』

開催時期：平成28年9月24日（土）

(4) ブログ 四季おりおり ～季節の食と文化～

期 間：平成28年4月1日より平成29年3月1日

更 新：毎月1回（1日） 全12回更新

内 容：日本の四季の食材・行事食などを紹介

文 章：新谷尚紀（専門委員／国立歴史民俗博物館名誉教授）

U R L：http://blog.canpan.info/shikioriori

<掲載内容>

- ・ 第1回 花見弁当 (4/1更新)
- ・ 第2回 粽と柏餅 (5/1更新)
- ・ 第3回 梅干し (6/1更新)
- ・ 第4回 鰻 (7/1更新)
- ・ 第5回 かき氷 (8/1更新)
- ・ 第6回 栗菓子 (9/1更新)
- ・ 第7回 牡蠣 (10/1更新)
- ・ 第8回 蕎麦 (11/1更新)
- ・ 第9回 おせち料理 (12/1更新)
- ・ 第10回 七草粥 (1/1更新)
- ・ 第11回 稲荷寿司 (2/1更新)
- ・ 第12回 桜餅 (3/1更新)

(5) その他

○ WEBでの告知、情報公開

ホームページ <http://jp-artsfdn.org/>

facebook <https://www.facebook.com/jparts.fdn>

twitter <https://twitter.com/jpartsfdn>

・ 主催イベント等の告知、申込受付

・ 「創造する伝統賞」および奨学金の募集告知、資料請求受付

・ 文化藝術の会入会案内、受付

・ これまでの助成顕彰事業授賞者、育英事業奨学生の最新の活動情報を発信

○ 賛助会員システム（WEB管理システム）の運用

○ 文化藝術の会会報発行（4回）